



長尾和宏 (ながお・かずひろ) 医学博士。東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。この連載が『平成臨終図巻』として単行本化され、好評発売中。関西国際大学客員教授。

うです。

7月8日、都内の病院で死去されました。享年89。死因は多臓器不全とのことでした。

引退後はテニスや旅行など趣味を楽しんでいましたが、ここ2年ほど誤嚥性肺炎などで入院を繰り返して、徐々に衰弱されていたようです。最期は家族に見守られ、穏やかな旅立ちだったとのこと。

115 評論家 竹村健一



「老衰は病名でないから、死亡診断書に書くなよ！」 私たちが研修医時代には、先輩にそう言われたものです。私が堂々と老衰と書けるようになったのは、町医者として在宅看取りに自信がついてからのことです。かつては「天寿を全うしましたね」とお話ししても、

多臓器不全とは、生命維持に不可欠な臓器「脳、心臓、肺、肝臓、腎臓」のうち2つ以上が正常に機能しなくなったことをいいます。そして3つ以上の臓器に重大な異常をきたすと命を脅かす状態に陥ります。

こう書くと、とても怖い病態に思われるかもしれませんが、高齢者が徐々に多臓器不全になるということは、老衰とほぼイコールかと思えました。しかし一昔前までは、死因を老衰とするのは躊躇(ため)われました。

「老衰は病名でないから、死亡診断書に書くなよ！」 私たちが研修医時代には、先輩にそう言われたものです。私が堂々と老衰と書けるようになったのは、町医者として在宅看取りに自信がついてからのことです。かつては「天寿を全うしましたね」とお話ししても、

「何も病名がつかないなんて」と拒否反応を示すケースも多くありました。昔は老衰という死亡診断書を書いても役場が受け取らない時代もあったと聞きます。

それが、先ごろの厚生労働省の発表によると、2018年の日本人の死因第3位が「老衰」に躍り出たというので驚きました。1位のがん、2位の心疾患に続き、全死因の8%を占めています。

超高齢化社会の証左であると同時に、死亡診断書に「老衰」と書く医師が増えたことは「平穩死」が認知されてきたのでしようか。日本人の死生観が明らかに変わってきています。しかし竹村さんは天国で、「だいたいやね、自分の死因なぞ知ったこっちゃないわ」とパイプ片手に笑っているそうですね。

もう一つ私が好きな竹村さんの言葉を紹介します。 「自分だけの頂上を目指せ！」

「マスコミが、芸能ネタやスキャンダル事件を執拗(しつよう)に報道している時は注意しなさい。国民に知られたくない事が裏で必ず起きている。そういう時こそ、新聞の隅から隅まで目を凝らし小さな小さな記事の中から真実を探り出しなさい」

今でも時折、この言葉を思い出します。なぜニュース番組のトップで芸能ネタを? 今日よりもっと大切なことが世界で起きたじゃないか…情報が溢れ過ぎている現代だからこそ、この言葉が一つの指針となっています。

芸能ネタより、自分の死因より、大切なものは

この発言主が、かつてメディアに多大な影響を与え続けた評論家の竹村健一さんでした。最近お見かけしないと思ったら、80歳で仕事を引退されていたよ